

仏教壮年会連盟事務局長

松下 昌文



このたび、平成31年4月1日付にて、榮俊英仏教壮年会連盟事務局長が、本願寺広島別院輪番・安芸教区教務所長にご就任されましたことを受け、後任として、事務局長に就任させていただきますこととなりました松下昌文と申します。

平素より、仏教壮年会の活動に深いご理解と多大なるご尽力を賜っております理事長、副理事長をはじめ理事・評議員の皆様、そして、全国の仏教壮年会会員の皆様、ご関係の皆様には、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私は京都教区の出身で、お寺はご本山の門前町にございます。小さい頃は、よく両親に連れられてご本山の白洲で遊んでおりました。境内にある「本願寺中央幼稚園」の卒園生でもあります。ご本山のお膝元ということもあり、親鸞聖人を身近に感じながら、とても恵まれた環境で今日まで過ごさせていただいてまいりました。

このたび、ご縁をいただきました仏教壮年会は、1979(昭和54)年に全国の仏教壮年会が結集して「全国仏教壮年会」が設置され、2008(平成20)年には「浄土真宗本願寺派仏教壮年会連盟」が発足、昨年には、連盟化10周年を迎えました。

このように長い歴史のある仏教壮年会に携わらせていただく導いご縁をいただきましたこと、大変光栄で有難いことであると喜ばせていただくとともに、今日まで、仏教壮年会の活動に情熱を注がれ、ご尽力くださった諸先輩方の覚悟とご苦労をお聞かせいただくたびに、その責任の重さに身の引き締まる思いがいたしました。

さて、このたび、仏教壮年会連盟では、新しい教材として「おみのり帳」が発行されました。「仏法(おみのり)」を聴聞して記憶に残ったことや、ご講師の言葉などをたくさん書き込んでいただくことができます。

蓮如上人御一代記聞書によれば、「私の心は、まるで穴のたくさんあいた籠に水を入れるようなもので、

ご法話を聞いたときは有難いと思うのに、その場を離れると元に戻ってしまいます」と打ち明けられた方に対して、上人は、「その籠を水の中にひたしなさい」と、お聴聞の大切さをお説きになられておられます。

この「おみのり帳」は、私たち一人ひとりが、お聴聞を重ね、大切な「おみのり」を繰り返し自身で味わうことができるように作られています。是非とも多くの皆さまにご利用いただき、お役立ていただければと思っております。

最後となりましたが、皆様のご期待に沿えるよう、仏教壮年会の更なる発展に向けて、微力ながらしっかりと取り組んでまいりたい存じますので、今後とも、ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◆新教材 おみのり帳



一部100円 ※送料有償 B6判/68頁/中綴じ製本
お買い求めは仏教壮年会連盟事務局まで
TEL:075-371-5181(代)

◆本年度新規単位登録名簿

2019年4月1日～9月30日

教区	組名	単位数
滋賀	山東 安立寺	安立寺仏教壮年会
新潟	西条寺	新潟教区西条組仏教壮年会
東京	群馬 清光寺	清光寺仏教壮年会
東北	福島北 常称寺	福島北組仏教壮年会
山口	下松 圓成寺	圓成寺仏教壮年会

登録単位数 2,529単位



第23号
2019(令和元)年
11月25日発行
発行所
京都市下京区堀川通花屋町下ル
仏教壮年会連盟広報委員会
題字：理事長 宮南 靖

「朋友」とは、同僚のなかま。2008(平成20)年4月の仏教壮年会連盟発足にあたり、仏教壮年会が力を合わせ、ともに歩みを進めていこうという願いから名づけられました。

第23回 仏教壮年長崎大会の開催報告

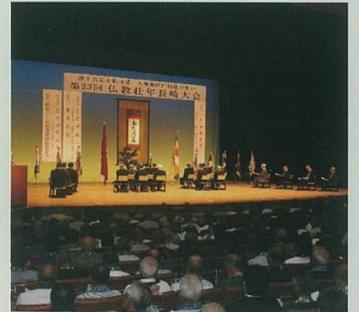
長崎教区仏教壮年会連盟理事長

山下 和彦



令和元年9月8日、長崎県諫早市で九州地区門信徒の集い「第23回仏教壮年長崎大会」を長崎教区の担当で開催しました。

近年、大きな自然災害が毎年のように発生していますが、今年も大会直前には佐賀県を中心とする豪雨被害が発生し、また台風が前後して襲来するという状況でした。台風の直撃は免れ大会は開催することができましたが、大会の直前で参加できなくなった方々が



いらっしやったことは残念なことでした。

九州地区(第5連区)では、前回熊本教区で予定されていた大会が平成28年4月の熊本地震により中止となり、宮崎大会以来6年ぶりの開催となりました。

本大会のテーマは「そのまま」と掲げられました。「そのままで救う」「そのままで救われる」という、み教えをいただくとき、それが如何に有り難いことかをそれぞれが改めてとらえなおし、これからの生き方を自らに問いかけ見つめなおす機縁にとの趣旨であったと理解しています。

ご法話は、本願寺派布教使若林眞人師から、「他力真宗」と題し、またご講演はシニア生活文化研究所代表の小谷みどり先生から「終活ブームの背景にある意識」との講題で、それぞれお話をいただきました。ときに笑いが大きくおこりながらも示唆に富む、ありがたく貴重なものでありました。



十善寺龍踊会によって披露され、大きな盛り上がりを見せていました。寺院数も少なく組織率も低い当教区での開催には不安もありましたが、何とか大きな問題もなく大会を盛会裏に終えることができました。本大会の参加者ももとより、開催にあたってご支援ご尽力をいただいた関係者の方々、参加がかなわずとも思いを届けてくださった方々、すべての方々へ心からの感謝とお礼を申し上げます。





2日目は、晨朝参拝・朝食後清掃奉仕を行い、書院で抹茶の接待をいただいたあと、普段は入れない書院の歴史的な建物や書画を拝観させていただきました。

11時半から安穩殿で閉会式に臨み、感謝状と、新たな念仏奉仕団旗を交付していただきました。これから我々の奉仕団で使われる大切な団旗です。

10月1〜2日には2回目の念仏奉仕団が開催されました。年明けの3月2〜3日には3回目の奉仕団が行われます。ご案内がありましたら是非ご参加くださるようお願いいたします。

合掌

2016~2018年度中央研修会 受講者対象
念仏奉仕団 開催予定
 2020年3月2日(月)~3日(火) 1泊2日
 会場:西本願寺 宿泊:間法会館
 参加費:15,000円
お誘いあわせのうえご参加ください!!
参加者にはオリジナル手ぬぐいを贈呈いたします。

「仏教壮年会連盟 中央研修会受講者念仏奉仕団開催の参加報告」

仏教壮年会連盟評議員(新潟教区)

研修委員長 平澤 茂則



仏教壮年会が連盟となって10年が経過、この間の中央研修受講者の数も約400名になります。中央研修を担当してまいりました研修委員と事務局で協議し、過去の受講者のアフターフォローが必要だということと、一区切りの記念行事として標記の念仏奉仕団を実施することとなりました。受講年次ごとにおおむね3年ごとに区切り、今年度3回実施する要領で参加のご案内を発送しております。

7月8日〜9日が第1回目の念仏奉仕団で、2011年度から2013年度の受講者から28名の参加を得て盛況かつ好評でした。宿舎を確保するため各回とも参加者の上限を30名としており、ほぼ順当な滑り出しであったと思われまふ。



午後1時に集合、オリエンテーション後、他の参加奉仕団とともに御影堂で開会式に臨み、清掃奉仕を行いました。

今回は阿弥陀堂が一部改修中のため、御影堂のみの清掃奉仕となりました。何年振りかで顔を合わせた方や、受講年次が異なるため初対面の方もおられました。全員昔からの知己のごとく和気あいあいでした。

午後3時から参加奉仕団ごとに記念撮影を行い、ご門主様とご面接がありました。

安穩殿でご法話をいただき、1日目の奉仕団の日程が終了しました。その後、間法会館に移動・休憩後、研修室で一人ひとり中央研修後の活動等を披露していただきました。この活動報告会こそが、今回の催しを



開催した大きな目的であり、単なる中央研修同窓会にとどまらず、中央研修が参加者それぞれにどのような影響を与え、今日に至っているかを共有することができました。参加者それぞれが各地で仏法活動をされていることを知ることができたのは、大きな収穫でした。

会場を移動して懇親会が行われ、過去の話や現在の話、将来の抱負などについて盛り上がり、とても楽しい時間を過ごしました。

仏教壮年会連盟ホームページにて「仏教壮年の声」を更新中!

各教区の仏教壮年会活動を毎月掲載しております。

長野教区仏教壮年会連盟総会 (長野教区)

2019(令和元)年度の総会を、6月22日(土)に本願寺長野別院において開催し、72名の参加をいただきました。総会后、山地組組長 久遠 峯志さんより記念講演をいただきました。普段から「生死(しょうじ)」について自分のこととして考えることが、いかに大切なことか、分かりやすくお話しくださいました。また、講演の合間には、ご講師自らプロ級の腕前であるサクスの演奏も何曲か披露され、大変有意義な総会・記念講演でありました。



自らの生き方を観望聖人のみ教えに聞き、ともに念仏申す朋友の輪を拡げ、心豊かに生きる社会の実現をめざす仏教壮年会連盟のホームページです。

トピックス★最新情報★

- **NEW!!** 仏教壮年の声を更新いたしました。(2019/10/1)
- 機関紙『朋友』第22号を掲載いたしました。(2019/9/8)
- 仏教壮年の声を更新いたしました。(2019/8/27)
- 仏教壮年の声を更新いたしました。(2019/7/27)
- 仏教壮年の声を更新いたしました。(2019/7/1)

朋友のバックナンバーもこちらからご覧いただけます

URL
<http://www.hongwanji-bussou.jp/>

